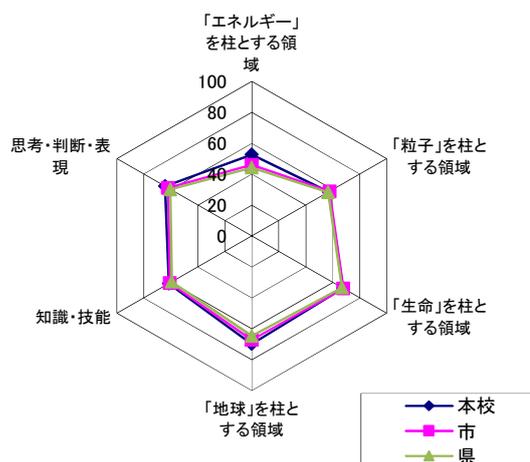


宇都宮市立錦小学校 第5学年【理科】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	「エネルギー」を柱とする領域	52.6	46.0	44.3
	「粒子」を柱とする領域	57.1	57.7	56.6
	「生命」を柱とする領域	67.6	67.8	66.9
	「地球」を柱とする領域	69.9	67.2	64.6
観点	知識・技能	61.4	60.8	59.2
	思考・判断・表現	64.3	62.1	60.4



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
「エネルギー」を柱とする領域	<ul style="list-style-type: none"> 平均正答率は、県や市の平均正答率より高い。 ○電流が同じ大きさの回路を選ぶ問題の正答率は68.9%で、県の正答率を26.8ポイント上回った。 ●簡易検流計の針のふれ方からわかることを答える問題の正答率は26.7%で、県の正答率を3.5ポイント下回った。 	<ul style="list-style-type: none"> 5年生の学習内容である電磁石の学習の際に、簡易検流計のつなぎ方や針の振れる向きが電流の向きと関係していることの復習を行う。
「粒子」を柱とする領域	<ul style="list-style-type: none"> 平均正答率は、県や市の平均正答率と同等だった。 ○空気と金属をあたためたときの体積の変化の大きさを比べる問題の正答率は86.7%で、県の正答率を15.8ポイント上回った。 ●試験管の水面近くを熱したときの水の温まり方を理解しているかどうかをみる問題の正答率は51.1%で、県の正答率を11.0ポイント下回った。 	<ul style="list-style-type: none"> 「もののとけ方」の学習で、食塩やミョウバンを水に溶かす実験を行う。その際、温められた水の様子を改めて押さえるようにする。 理科の授業だけでなく、家庭科の調理実習や普段の生活の中で、温められた空気や水がどのような動き方をするのか気付くように指導する。
「生命」を柱とする領域	<ul style="list-style-type: none"> 平均正答率は、県や市の平均正答率と同等だった。 ○季節の順に並べたイチョウの記録を選ぶ問題の正答率は51.1%で、県の正答率を13.9ポイント上回った。 ●腕をのばしたときの筋肉の様子を選ぶ問題の正答率は51.1%で、県の正答率を11.1ポイント下回った。 	<ul style="list-style-type: none"> ヒトの体の動きを観察し、骨や筋肉がどのように働いているのか復習する。また、理科の学習だけでなく、体育の学習や普段の生活で体を動かす際にも、どの部分の骨や筋肉が動いて、どのように働いているのか意識させることで、ヒトの体についての理解が深まるように指導する。
「地球」を柱とする領域	<ul style="list-style-type: none"> 平均正答率は、県や市の平均正答率より高い。 ○蒸発について理解しているかどうかをみる問題の正答率は68.9%で、県の正答率を11.3ポイント上回った。 ●月の動き方を理解しているかどうかをみる問題の正答率は62.2%で、県の正答率を4.0ポイント下回った。 	<ul style="list-style-type: none"> 地球が自転しているため、太陽・月・星が東から西へ一定の動き方で移動していることを復習して確実に押さえる。 月・星の観察は夜間に行うため、家庭と連携しながら行う。また、登校時や下校時に見える月にも着目させて興味・関心を高められるようにする。